

### 教職員の健康について

**質問** 今、学校現場では、長時間過密労働が蔓延し、教職員の健康被害が出ていると言われるが、市内大規模校での退校時間はどのようになっているのか伺いたい。

**また、市内の教職員の病**  
 気休暇取得の状況、休職者の人数やそのうち精神疾患と思われる者の数はどうなっているのか伺いたい。

**答弁** 平成十八年度の当市における十クラス以上の小中学校の最後に帰る人の時刻は、機械警備の記録によると、小学校では五校あり、その平均施錠時刻は午後八時五十八分、また、中学校四校では午後十時二十二分となっている。

**また、病気休暇等について**  
 は、同年度の当市の教職員四百三十名のうち、一ヵ月以上の病気取得者及び休職者は合わせて十五人で、そのうち精神的疾患によるものは七名となっている。

**質問** 市内の教職員は、どのような勤務状況に置かれているのか伺いたい。

**また、教職員の長時間過密労働を解消するための取り組みを伺いたい。**

**答弁** 教職員の仕事は、授業や部活動など児童生徒と直接かかわる指導のほか、

授業の準備及び採点処理、学級経営その他学校運営における会議や研修など、多くの校務がある。さらには、PTA活動並びに保護者等への対応など多岐にわたっており、帰宅時間が遅くなっている方もいるものと思われる。

**長時間過密労働の解消策**  
 としては、現在、上北地方の小中学校、中学校の校長会において、教職員が夜遅くまで学校に残っていることは、健康上、家庭生活上、施設設備の管理上の問題などがあることから、特に理由がない限り午後八時までは退校するように努力すること、歩調を合わせ取り組んでいる。また、上北地方中学校の体育連盟及び文化連盟等では、学校週五日制における部活動にかかわる申し合わせ事項の中において、平日の部活動は二時間程度とするということも確認している。



放課後のクラブ活動

### 中学生の職業体験について

**質問** 中学生の職業体験について、当市における実施の状況と今後の課題について伺いたい。

**答弁** 職場体験は、市内全中学校で自校の特色を生かして実施しており、生徒のニーズに応じて実施している学校が六校、あとの三校は職種を農業や保育園等に絞って実施している。実施学年は、三年生が四校、二年生が三校、一年生と全学年がそれぞれ一校ずつ。実施日数は、一日が二校、二日と三日が三校ずつ、五日間実施が一校で、前年より日数を増やした学校は二校であった。特徴的な取り組みとしては、例えば一学年は全員で農業体験、二学年は個々に職場調べをして、三年生で職場体験というように、中学三年間で段階別に体験活動を位置づけて実施している学校が二校ほどある。

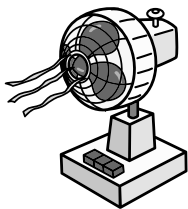
**今後の課題**  
 については、生徒が安全に体験できるよう、あるいは無償でお願いすることなどから、受け入れ先の事業所の開拓が難しい。また、実施範囲が学区中心の学校では、生徒の希望する職場が限られている。職場への通学途中の事故の心配あるいは保護者の協力も

### 住民参加型市場公募 地方債について

**質問** 住民参加型市場公募地方債は、通称ミニ公募債と呼ばれ、住民の行政への参加意識の高揚などの目的で、各地方自治体での発行が徐々に普及しているが、当市においてこのミニ公募債を実施する考えはないか伺いたい。

**答弁** 地方債の発行制度は、地方分権の一環として昨年度から許可制から協議制へと移行され、また資金配分も政府系資金の地方債枠が縮小され、逆に民間投資資金の枠が拡大してきている。このような状況下での資金調達法として、ミニ公募債も有効な一つであると認識している。このため、導入に当たっては、対象事業、それから発行に関するノウハウや事務量、コスト面、さらに引受機関との調整、

将来の住民負担など、ミニ公募債のメリット、デメリットを分析する中で総合的に検討していきたいと考えている。



### 観光経済



現在の観光パンフレット

### 観光パンフレットについて

**質問** 現在、市内の各ホテル、旅館等の個々のパンフレットはあるが、宿泊施設を掲載したパンフレットや十和田市の他の観光地、物産あるいは食事どころを網羅したパンフレットやガイドブックがないように思うが、作成する考えがあるか伺いたい。

**答弁** 確かに休屋、焼山地区の宿泊施設を網羅した観光パンフレットはない。当市には、観光資源が豊富にあることから、宿泊はもちろんのこと、食事、お土産も一目でわかるような、今まで以上に充実した、魅力満載した観光パンフレットを発行していきたいと考えている。

### 今後の観光戦略について

**質問** 十和田湖への観光客が年々減少し、宿泊者も減ってきていると聞く。これからは観光客に対し、積極的に誘致していかなければ観光客は来ないと思うが、今後の観光推進、戦略をどのように考えるのか伺いたい。

**答弁** 十和田湖観光協会など観光諸団体が合併して一つになることにより、より強い連携のもとに市の観光資源である新渡戸記念館、官庁街通り、称徳館、道の駅、奥入瀬溪流、十和田湖及び八甲田山系を初めとする豊富な温泉群、そして来年オープン予定の十和田市現代美術館等を総合的に情報発信できるように体制を整備していきたい。

**また、年間を通した多種多様なイベントも開催されており、合併後はトップセールスということで、市長自ら先頭に立ち大手の旅行会社に出向き、観光PRに努めている。さらに、県が企画する観光エージェンメントへのプレゼンテーションにも積極的に参加し、十和田市の魅力をアピールしていきたいと考えている。**